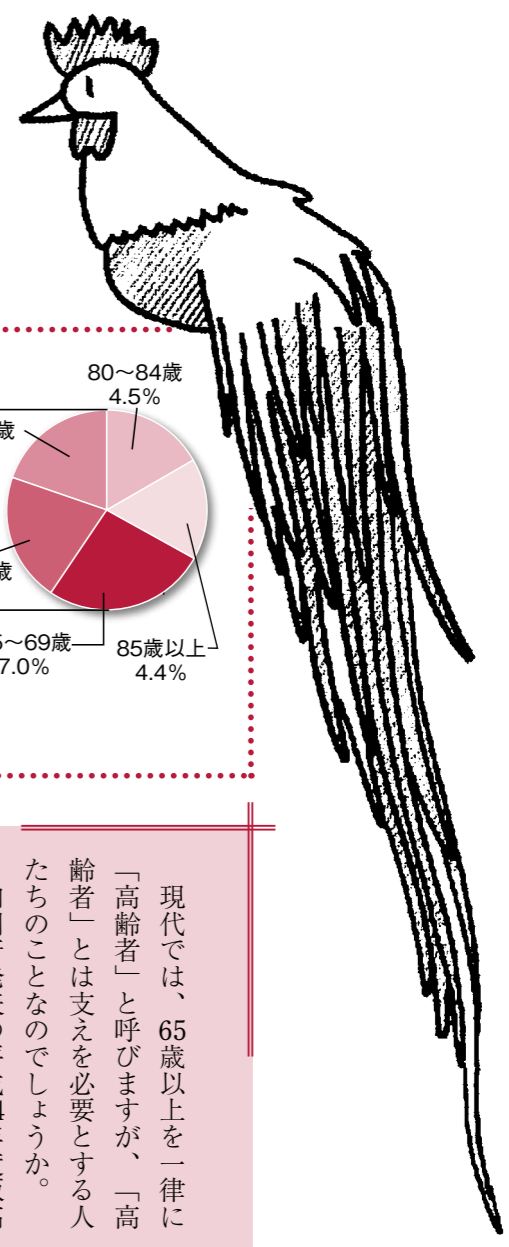


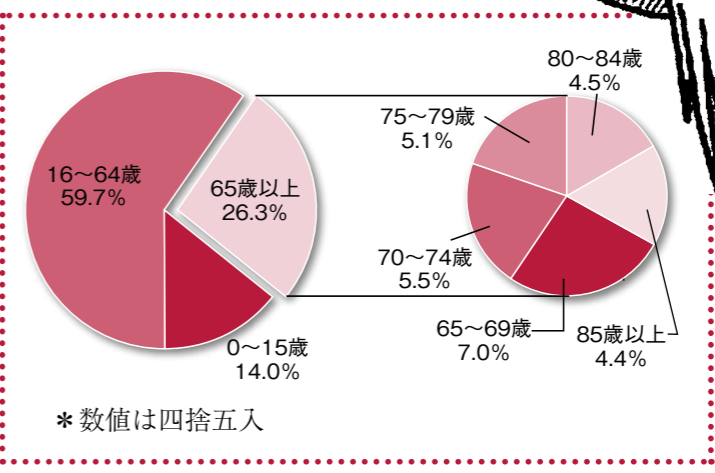
# 高 = 幸 齢 者

“幸せ”に歳を重ねたい、というのは誰もの願いです。誰もが、「長生きしてよかった！」と思える社会にするにはどうしたらいいのでしょうか？

**かつてない 長寿社会の到来**  
 高知県では、今年度258人が100歳の誕生日を迎えたと発表され、これにより10万人あたりの100歳以上の人口の割合は、78.5人で40年ぶりに全国トップとなりました。



**南国市**では  
 65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合26.3%（平成24年10月末現在）  
 いわゆる「団塊の世代」が65歳に達し始め、南国市でも、5年前（平成19年10月末時点）の23.4%に比べておよそ3%増加しています。



現代では、65歳以上を一律に「高齢者」と呼びますが、「高齢者」とは支えを必要とする人たちのことなのでしょうか。  
 内閣府発表の平成24年度版高齢者白書では、「高齢者」は、支えが必要であるとする考え方や社会の在り様は、意欲と能力のある現役の65歳以上の者の実態から乖離しており、高齢者の意欲と能力を活用するうえで障害要因となっている。また、65歳以上であっても社会の重要な支え手、担い手として活躍している人もいるなかで、これらの人を年齢によって一律に「支えられる人」と捉えることは、活躍している人や活躍したいと思っている人の誇りや尊厳を傷つけることにもなりかねない」という認識が示されています。



角のおばあちゃんは、  
 いつも公園の花の手  
 入れをよって、毎朝、  
 挨拶してくれる。  
 優しく声をかけてく  
 れるき、僕も嬉しくて  
 元気に挨拶するが!!



あそこのおばあちゃんも元気  
 やもねえ。けんとおさむくんみ  
 たいに挨拶してくれる地域の子  
 どもらあとか、花の手入れにお  
 礼を言われる事がおばあちゃん  
 の元気の源かも知れんねえ。  
 わしもおさむくんらあがある  
 き、まだまだ元気であらういか  
 んと思つもねえ。



おじいちゃんも、学校に本を  
 読みに来てくれゆうだね。  
 みんな喜んでゆうで！  
 これからも来てほしいき、  
 元気で長生き  
 してよ。



花の手入れや毎日の挨拶、  
 絵本の読み聞かせ  
 に行くがも、全部おじ  
 いちゃんらああがの生きがい  
 になつちゆうがよ。そう  
 いう人らあが元気で長生  
 きできるがやないらあか  
 ねえ。

第6回はがきでごめんなさいコンクール ナンクスーパー賞  
 カイツアン・サハールさん（愛知県名古屋市）の作品

多くの人が「健康に長生き」しようとして生活してきたことが、日本が世界有数の長寿国となった理由の一つではないかと思えます。

人それぞれ価値観は違いますが、“生きがい”を持って、健康で長生きする『幸(高)齢者』が、どんどん社会に参画していく時代ではないでしょうか。地域の幸齢者が、地域の子もたちを見守り、地域社会を支える力となるのです。

65歳に達しない若い世代は、幸齢者に支えられていることを忘れてはいけません。「高知県長寿憲章」では、「子どもしかるな、来た道よ。老いを笑うな、行く道よ」という言葉が高知に伝わると紹介されています。世代間で互いを尊重し、誰もが尊厳を守られて生きることができる社会にしたいものですね。

※人権特集は、12月4日から10日までの人権週間にちなんで、毎年12月号に掲載しています。お問い合わせは、人権啓発広報委員会（☎880・6569）まで